

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100559		
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム サニーワン(ふる一つはうす)		
所在地	和歌山県日高郡日高川町大字初湯川213-1		
自己評価作成日	平成28年11月23日	評価結果市町村受理日	平成29年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成29年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との繋がりを大切に、祭事や運動会、ふれあい祭りに参加したり、地域の小中高生や園児に來訪いただき交流の機会を持っています。地域のサークル「短歌の会」へは2名の方が加入されており、施設にもお越しいただきサークル活動の会場としても活用して頂いています。施設の夏祭りでは地域の人々が多数参加され馴染みの方との交流の場となっています。かかりつけ医師の継続や外出の機会を持てるように本人の希望に添えるよう個別ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周囲を山に囲まれ、自然を豊かに感じる事が出来る場所に立地している。職員は地域との関わりを大切に、祭事には進んで参加、文化を学ぶ取り組みがなされている。利用者一人一人が孤立することがないように、外出する機会を多く持っている。また、利用者の持てる力が発揮できるように、短歌の会への参加やボランティアとの交流、家族との外出、地元や遠方の出身地への祭りへの参加等、個別な支援を心がけ、利用者が笑顔を多く持って暮らせるように理念にそったケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示し、職員の共有に努めています。四季を感じる豊かな自然を活かし、楽しみの多い暮らしの実現を目指しています。	管理者と職員は法人施設と各ユニットの理念を共有し、日々のケアの提供場面において、職員一人一人が目標を掲げて理念に近づけるよう、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等や近隣の小学校の運動会に参加したり、施設での夏祭りに地域の方をお誘いしています。入居者と一緒に近所の商店へ買い物に行ったり近所の喫茶店へ行ったりしています。	近隣の小学校との交流、ボランティアの受け入れ等を積極的に実施、祭事への参加、毎月のゴミ拾い等、事業所が地域の一員として暮らし続けることが出来るように実情に合わせた取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の慰問や地域サークルの「短歌の会」に参加し、認知症に対する理解の場としています。防災訓練として県の地震体験車を活用し、地域の方と職員が参加し利用者は見学するという事で認知症の支援方法を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催しており施設での行事や現状を報告し、行政・地域の方と意見交換をしてサービス向上に活かしています。	2か月毎に開催し、民生委員、元老人会長、地域代表、駐在所、行政、家族代表の参加が得られ、意見交換を行っている。会議後は併設の施設での昼食会を開催し、リラックスした雰囲気の中で意見交換ができるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する質問や変更の事項については市町村に相談し回答を得ています。また、事業所の実情を運営推進会議を通じて市町村担当者に伝え協力関係を築いています。	市町村担当者には 運営に関する相談や介護保険に関する相談等を行うことで協力関係を築き、意見や助言を得ている。包括支援センターからは利用申し込みや相談を受けることで事業所の実情を伝え意見を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し理解している。玄関の施錠に関しては外部評価の結果を踏まえて期間を定めて開錠をしていましたが、施設の立地条件等の環境から継続に至っていません。	各ユニットの玄関を開錠した時期もあったが、安全性を重視し、現在に至っている。毎月身体拘束廃止委員会を開催し、研修等も積み重ね、スピーチロックについても一人ひとりが注意し合え、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	屋外へ行き来が自由に出来、利用者の方が、地域の中で抑制の無い尊厳ある暮らしが実現できるよう、職員配置の工夫、時間帯等の工夫など、短時間からでも開錠できる積極的な取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり施設内の勉強会や月に一回の委員会にて話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となる方がおられる場合は対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には入居者、家族様には十分な説明とご理解を頂き契約の締結・解約等を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には面会時やサービス担当者会議の場において意見を伺っています。運営推進会議の場に家族代表の方に参加頂いています。	入居時や面会時、電話や手紙等で家族の意見や要望を聞く機会を持っている。利用者からは日頃の関わりの中から要望等、把握できるように努めている。出された意見・要望は運営の中で実践されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で職員の意見を聞き運営に反映させています。	合同の会議やグループホームでの会議、日頃の対話の中で意見を聞く機会を持っている。職員がユニットリーダーや管理者に意見を述べることで、上司や管理者が運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度の人事考課による評価を行い面接において、個人の目標や希望を聞き取り意欲向上に結びつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加しています。研修資料は職員で閲覧し、共有できるようにしています。資格取得のための支援やOJTの重要性を理解し取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ他の事業所との交流がある。必要時には他施設への見学、見学受け入れを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接、本人と話し合い不安や要望を傾聴しながら信頼関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族様から確認しています。サービス担当者会議や面会時、電話連絡などでその都度伺いながら良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議にて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や他者との協同生活が楽しみのあるものになるよう会話をしながら一緒に考えていけるように支えあう関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式を活用したり施設内のイベント等にお誘いし、家族様も一緒に参加できる機会を設け共に支えあう関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様と外出したりかかりつけ医への通院や地元の商店への買い物等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	パーマや毛染め、かかりつけの病院への受診等、馴染みの場所に行けるよう個別に支援している。家族や親せき、知人の面会もあり、電話や手紙の支援をすることで馴染みの人や場の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が座るテーブルの位置を配慮したり、入居者様同士が良い関係作りが出来るように職員が間に入り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退去後も家族様に状態確認し相談に応じ対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人と家族様に確認をしています。また、日々の生活の中での会話等で把握できるように努めています。	利用者本位の暮らしを支援できるように、各ユニットの気付きノートに職員の気付きを記入し、話し合い実践に繋げている。言葉で表せない人には感じとる努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と家族様に確認をし、これまでの暮らしが継続できるように、あるいはこれまでの暮らしに近づけるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での健康管理、職員同士の情報交換を行い残存機能の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて家族様や本人から要望を伺い、職員の意見を取り入れながらQOLが高まるものになるような介護計画を作成している。	気付きノートを会議で話しあい、サービス担当者会議での要望を取り入れている。医療面では、かかりつけ医や看護師からは常に意見を得られ、本人の現状に即した介護計画を作るように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやケース記録に記入し、共有できるようにしています。職員の気づきはユニット会議で話し合い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一時帰宅のつき添いや美容室への付き添い等、その時々ニーズに対応し一人ひとりを支えるために柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの慰問やふれあい祭りへの作品出展、地域の子供たちとの交流等本人の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者9名中3名の方はかかりつけ医を継続されていて、事業所との関係を築き連携に努めている。ホームの主治医は月に一度の在宅診療と必要に応じた往診があり、日々の情報はFAXや電話で提供しています。	利用者が適切な医療が受けられるように、継続したかかりつけ医への受診の支援を行っている。主治医へは情報を伝え連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師へ朝夕の申し送りや報告・相談をしています。また、職員として配属している看護師と連携し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や家族様と連携を取り経過の観察をし、長期に入院が必要となれば、院内カンファレンスを開催して頂き情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合における対応に関わる指針を作成し家族様に説明しています。主治医・家族様と相談・検討し可能な範囲で対応していますが医療ニーズが高くなりホームでの対応が困難になった場合は他職種と情報を共有し対応しています。	契約時や身体状況に変化がみられた時には家族・主治医を交え話し合いを行っている。体制が整っておらず終末期ケアの実践は出来ていないが、家族の希望で入院や他施設へ移ることが出来るように支援を行っている。	地域のニーズに応えられるよう、施設で最期を迎えることが出来る終末期ケアの在り方が検討され、ご家族、利用者の方が安心できる体制づくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受けています。また、施設看護師による事故・特変の対応についての勉強会や指導を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練により職員の意識向上に努めています。地域とは防災対策相互協定書を交わし、年に一度話し合いの場を設けています。また、運営推進会議にて地域住民や行政と相談しています。	事業所は福祉避難場所に指定されていて、備蓄の確保も行っている。居室内の家具が倒れないように入所時には支えを購入し、安全に生活ができる支援を行っている。夜間を想定した訓練も実施しており、職員の意識も高まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に心がけています。	外部から講師を呼び、勉強会を行っている。排泄や入浴時の声掛けの工夫や同性介助には気を配っている。呼称については本人の意向に添いながらも、人格を尊重した対応ができるよう職員間で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	望む暮らしの実現に向けて一人ひとりのペースを大切にしながら、その日一日をそれぞれの希望に沿って生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る衣類は職員と一緒に選んだり自己決定ができるよう努め、理美容は外出を兼ねて店舗を利用されたり、2ヶ月に1回の出張サービスを受け希望にそったおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに対応し、作り分けをしたり、ユニットでぬか漬けの管理をしています。利用者と職員と一緒に準備をしたり楽しみの持てる食事になるよう支援しています。	1週間分の献立を利用者と一緒に考え、ユニットごとに食事作りが行われている。利用者に味見をしてもらったり、おかずの取り分けを一緒にしたりして食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取は電子カルテに記録し管理しています。食事量の低下等あれば主治医と相談し、栄養補助食の処方をしたり一人ひとりの状態に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと義歯洗浄は週2回ポリデントを使用しています。また、口腔ケア委員会にて一人ひとりの口腔状態の把握をし、指導、教育をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテを活用し一人ひとりの排せつパターンを把握し、トイレでの排泄支援に努め職員が二人介助をする等安全で希望に沿った自立にむけた支援を行っています。	一人ひとりの排泄が把握できるように電子カルテを利用している。入所当時はオムツ使用であった方が布パンツになった事例もあり、紙オムツを減らし自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	電子カルテを活用し、排便や水分の確認をしています。乳製品や食物繊維の多いものを食べて頂いています。体操やレクリエーションで運動する機会を設けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認しながら、本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。	一人ひとりの希望に添うように、曜日や時間を決めず、毎日、朝から夕方まで利用できるように取り組んでいる。併設の施設の温泉も利用でき、入浴拒否の方には上手な声かけやタイミング、足浴等で個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のリズムに応じて休息や活動のメリハリがつく事で安眠できるように努めています。朝の起床時間は一人ひとりその時々によって違う対応ができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を把握し薬の効能の理解に努めています。主治医や看護師に相談できる体制を作っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや生け花、貼り絵等の趣味を継続した余暇活動や家事等の役割を持つことで張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や四季に応じた外出支援をしています。本人の希望を傾聴しながら、戸外へ出かける機会を設けています。家族や地域の方に協力をいただきながら気分転換が出来るように支援しています。	散歩は近所の神社、喫茶店、パン屋へ行き、周囲の自然を五感で感じ取れる取り組みを行っている。個別の外出支援や家族と一緒にの外出等、日常的な外出の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は見守りながら買い物の際の支払いをして頂いたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも家族様と会話ができるように支援しています。また、毎年、年賀状を家族様に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中でも季節を感じて頂くため、季節の花や写真を飾ったり旬の食材を取り入れた食事を提供しています。温湿度を管理し、居心地の良い空間作りをしています。	中庭には先日降った雪が残り、わずかに残った千両の赤い実が硝子越しに四季を感じさせる。静かに音楽が流れる共用の空間では、季節の花や写真等が飾られ、落ち着いた家庭的な雰囲気、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫し、個々のニーズにあった環境作りに努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの家具等を持って来て頂いています。	一人ひとりが使い慣れた物や好みの物を持ちこみ、利用者の居心地の良さを配慮している。居室には自作の短歌も飾られ、落ち着いて生活できるように取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や危険な場所には保護をし、椅子や車いす等一人ひとりに応じた安全のためのメンテナンスをしています。		